

| 委員会 | 規律・フェアプレー委員会 | 担当者氏名 | 武内 英郎 |
|--|--------------|-------|-------|
| <p>〔現状〕</p> <p>各種別の連携が不十分であり、出場停止や累積警告による出場停止もバラバラであったりする。JFA規約・規定を各種別の委員長が把握して理解を深める。</p> <p>フェアプレーの精神を理解した上での行われなかったゲームも幾つかあり、特に、トーナメントの勝ち上がりによって退場者が多くみられる。チーム、選手、関係者だけでなく、応援の保護者にもフェアプレー精神を深めて欲しいケースもある。</p> | | | |
| <p>〔目標〕</p> <p>5～10年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規律・フェアプレー委員会として組織を充実させるために、各種別の連携を深める。 ・北信越エリアでの情報交換を実施する。 ・判例を題材に委員長がディスカッションを行う。 ・フェアプレー賞対象のチームを大会を通じて評価し、それをチームに積極的に贈る。 ・各大会の視察を行い、「規律・フェアプレー委員会としての報告書」を作成する。 <p>20年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審判委員会と共有できる企画を実現し、ゲームでの公正さを分析する。 <p>20年以降50年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに、改革を進める。審判委員会と共有できる企画を実現し、ゲームでの公正さを分析する。 | | | |
| <p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規律・フェアプレー委員会を定期的に開催する。年2～3回を目安。 ・北信越国体の時期に北信越エリアの情報交換を行い、年度ごとの目標を設定する。 例) 年度の種別ごとの出場停止選手のファイルを作成。 ・各大会の事前に行われる、代表者会議、総会、顧問総会などで規律フェアプレー委員会の取り組みや基本姿勢を伝達する。 | | | |